毎月二日・十二日・二十日発行
本紙定價　一部　金五錢
廣告料　一行十五字詰　十五錢
大阪市住吉區帝塚山三丁目
關西大學千里山學友會新聞部
電話　吹田一二三番
振替　大阪一二八七五
發行所兼編輯印刷人　青木　實

新入學諸君を迎へて

新聞部々長　賀來俊一

來た、又來た、力に來らるべき日が來た。昨年來、鶴首し、焦待した今日こそあつた。この日、我千里山學園には颯爽として嚴目の新進學徒が來たりつどい、茲に吾人と同學の道を結ぶことゝなつた。吾人は衷心、慶祝のまことを致さねばならない。嚴粛のようこびを湧へつゝ！

顧みれば史乘五十年、關西法律學校、和して瓜々の聲を揚げて以來未だ嘗て官僚のふところに抱かれたことは素より無く、又金權の匕首にかくれたことも全くあらず。猶荒波萬丈、一「私立學校」の旗旆をかざして、法律學の研究にいそしんで來たのではあつたが、今や政治、經濟、商業の諸學科は言ふに及ばず、所謂「學校」學者の至誠に立ち、方に、母胎「大阪」の威容と相俟つて學風いよ〳〵輝き「大阪」の大と相異して學權ます〳〵「聳きを加へ、大阪における文化の聖殿として汎ねく朝野を天下に稱するに至つたのである。

さりながら、大阪は素とこれ一個の商業都市、人はこれを以て勝りとなし、人はこれを以て本然の使命と心得て居た。「關西法律學校」も亦斯商業都市の商業生徒に鑑織せし煩雑なる法律事故の日常生活に必要に直應せしむべき研究機關であつたのであるが、時代は遷る、しかも「學問」は決して「商業生活」の部分的要求にのみ卽すべきものでない、況んや「グレート大阪」は過去を清算して今や、あらゆる文化的要素の織一元體として、その內容の充實と擴張を促したのであつた。夫れは極めて抽象的、問題的に映であつたことは今更説明するまでもない。

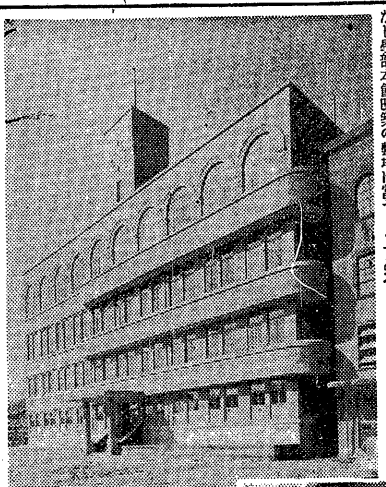
斯くて我大學は、單に實務の理論檢討講壇の施設に甘んずることを得ず、されば「大阪」の文化より遊離することなく更に向上、世界に日本としての文化の貢獻とに任ずべき一大飛躍を期待し、「地の利」の和に若かずと兵家の言は移して以て我大學の過去を打診に宛つるに足り、よしやいかに母胎「大阪」がその偉大を加ふることに由つて、おのづから我大學の壯觀を誘致したとは言へ、之を以て驕奢の功を奮り、一つの地「大阪」、一つの都「大阪市」にのみ歸することは許されない。吾人は更に、より强く、より固く、より洗練せられたる力を以て、我大學の進歩過程に幸ひし、其史線を潤色したことを肝銘しなければならない。何ぞや、他なし、夫れは「人の和」そのものであつた、今試みに「地の利」を「大阪」に孚けたりと假想しても、其利便が文化的觀點において、いかに東京に劣り、いかに京都に及ばざりしかは敢て贅言を要しないであらう。況んや我同學の士が大阪市府の多くの組織せられ、敢容せられて居ることにおいてをや。況んや又、商業

千里山上の偉容
我等が誇る學園
豫科學舎は來春竣工の豫定
出來上つたモダン假校舎

昨年十二月我等の豫科學舎が一朝灰燼に歸したが、その後如何なる對策が講ぜられて來たか、三十萬圓の費用を以て本建築に當てるとは既報の如く であるが、その工作は着々進行しつゝあるか我々學徒が必ず關心を持つところである。即ちこの程假校舎が竣工して豫科新入生教室に當てられ、更にグラウンド東南につゞく丘陵一帶七千坪を京阪電鐵會社より買收して目下グラウンドと丘陵との四地の埋立に大童で來春迄に落成の意氣込みでいよ〳〵着工した

最初當局は假校舎の敷地選定に廣く心し買收地か或は既揚附近に設置の說もあつたのであるが、學友會より假校舎を竣成後 **學友會館** に利用すべしとの熱烈な運動があつたので遂に當局もこれを諒としクラブハウスの東南部にその位地を決定して一月下旬より着手四月上旬に完成したのであつた、二階建煉瓦が白色入造ビシヤン叩で工費二萬五千圓建坪は二八〇、建坪二五〇・五五坪は一六〇・五五坪(四教室)二階は九〇坪(二教室)で仍て將來學友會館として階下に集會室、柔道部、卓球、撞球部の各部室階上はその他各部の部室が割當てられる筈である

京阪電鐵 より東南部丘陵七千坪を買收し、豫科學舎の位置は、丘陵一本松附近北向きに構造は鐵筋コンクリート造一部鐵骨造三階建一棟で坪數一五九六・九六、延坪四〇三五・五五一階一五九三・九三坪(教務、應接室、教授室、豫科長室、軍事教官室、生徒控室、圖書室、錬器室、雨天體操場、三教室二階一五九六・九三坪、學長室、研究室、十二教室)三階八〇六・六三坪(地下特別階段教室、講堂(八百人收容)御眞影奉安室)で來春竣工の豫定また校門を既設し學部佛語獨逸科新入生教室に當てられ面目を一新せんことを期してゐる



舊校舎……
燒跡は庭園に
グラウンドも更に擴張か

舊校舎燒跡は漸次これを取拂つて平面にし芝生を植ゑて當分庭園となし學部本館改築の敷地に當てまた新寶收地の一部約三千坪は運動場に使用することに豫定せられてゐる

五十周年 記念祝賀會は
來年に延期
今年大學祭も實現不可能か
玉木專務理事談

今年本學創立五十周年を迎ふるに際し玉木專務理事は語る本年は創立五十周年を迎ふる譯であるが去年豫科校舎火災の爲會場の不足その他種々便宜惡く祝賀會は延期して來年秋に豫科校舎竣工の喜びと共に盛大に行ふつもりだ、今年度大學祭に關しては私の口にすべき處ではないがこれも會場設備等の不足から實現不可能でなからうか、プール敷設の運動もあつたやうであるが、憂に耽門部の增築、假校舎建築の上に巨に多額を要するその爲めプール設置は今のところ實現困難である

法經兩學部の新陣容
新に七講師來任

法文學部
戰時國際公法　國際法　神原大教授　川上　太郎氏
國際法　同大教授　河原　政勝氏

經商學部
經營經濟論　京大教授　蟇川　虎三氏
海外經濟事情　大阪大教授　村本　福松氏
大學豫科
英語　扇山　四郎氏
佛語　三宅　治氏
獨逸語　下田　將美氏
日本經濟史　大阪大教授　管野和太郎氏

新裝をこらした
天六專門部本部と千里山豫科板校舎

昨年四月より約二十萬圓の豫算で建設中の天六專門部本部は三月十四日遂に完成、內部の取付が既に完了して使用されてゐる、建坪四六六、六平方尺、延坪二二八九、三平方尺で地階は鉄筋コンクリート造、學友會室、小使室、食堂、電氣室、石炭庫に一階は教務、會計、庶務、學生部、藏書室、理事室、教授室に二階は會議室、研究室、四階は圖書庫及講堂に利用されてゐる(寫眞上)

◇

別項の如く竣工した假校舎は本建築竣成後學友會館として各學友會に利用されてゐる(寫眞下)

趣味の法律
廣告を掲載せる
新聞の責任に就いて
春原源太郎

古いことだが文藝春秋が何かで「新聞社はあやまらなくつてもいいのか」として、山本有三氏が新聞記事の誤報について「自動車の運轉手がハンドルを取違へて人を傷つけた場合彼はすぐ車を止めて被害者を見舞ふだらう。ところが新聞社の誤報は謝りもせずに行過ぎて終ふ。新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任を面白く取扱つてゐたことがある

新聞記事の正確と迅速とは或場合兩立し得ないことは新聞界のもつ共通の悩みであらう。それが人名欄に關する場合新聞紙法には公益記事の免責規定がある。しかし「何が誹謗記事であるか」と云ふと「これが誹謗に當るか」と云ふと自ら異るのであつて新聞記事及廣告の淨化とやかましい問題とは別である。

新聞社は自ら新聞紙法に定めた公益記事の免責規定がある。しかし「何が誹謗記事であるか」と云ふと「これが誹謗に當るか」と云ふと自ら異るのであつて新聞記事及廣告の淨化とやかましい問題とは別である。

それは兎角一箇月程前に結婚したばかりだつたので新聞社は賠償金をとられあやまらされたとのことである。

それでは新聞の記事と廣告とによつて內容が人の名譽に關する場合廣告主が責任を負ふのは當然であるが新聞社の責任に區別はないだらうか、廣告のことを特別記事とでふ學者もある。記事に關する誹謗事件は隣分多い。名譽に關する事件の多くは新聞紙に關係ありと云はれる程であるが、廣告を掲載したために新聞社が責任を問はれた例は餘りないやうである。

昭和八年になつて「廣告文の內容が頗る穩當を缺き紙面が新聞紙に重大なる過失あり掲載文は新聞紙に直接依頼の形式を以て業者が直接手渡しする場合、廣告主が新聞社に廣告料を支拂つたとき業者の名義と直接手渡しする場合、これが負擔に他人の名義を用を毀損するとなるのかと云ふことを新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任

その婦人は僅か一箇月程前に結婚したばかりだつたので新聞社は賠償金をとられあやまらされたとのことである。

それでは新聞の記事と廣告とによつて內容が人の名譽に關する場合廣告主が責任を負ふのは當然であるが新聞社の責任に區別はないだらうか、廣告のことを特別記事とでふ學者もある。記事に關する誹謗事件は隣分多い。名譽に關する事件の多くは新聞紙に關係ありと云はれる程であるが、廣告を掲載したために新聞社が責任を問はれた例は餘りないやうである。

昭和八年になつて「廣告文の內容が頗る穩當を缺き紙面が新聞紙に重大なる過失あり掲載文は新聞紙に直接依頼の形式を以て業者が直接手渡しする場合、廣告主が新聞社に廣告料を支拂つたとき業者の名義と直接手渡しする場合、これが負擔に他人の名義を用を毀損するとなるのかと云ふことを新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任

容易なことではあるまい今茲にそうした大きな問題を取扱はうとするのではないが、新聞廣告が人の名譽信用に關する內容を有する場合にこれを掲載した新聞社は無條件にあやまらなければならないだらうか、千九百一年ごろ筆者などは未だ生れても居ない、從つて新聞の何者なるやも知らない時分既に外國では「ある婦人が双生兒を生んだ」と云ふ廣告を頼まれた、新聞社が出生欄に載せたところが

に關心を持つ人に對しては新しい問題を提供されたものとも云ひ得る。廣告主は業者と直接手渡しする場合、これが負擔に他人の名義を用を毀損するとなるのかと云ふことを新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任

なんとかの合同の新聞社にも出來ることだらうか

しかし又一面「新聞廣告は何人も嘆もその依頼をなし得べく寧ろ一般多衆の需に應じて廣告を掲載するは常道の事態で偽を廣告を掲載する者の氏名が廣告文中に明示されてゐなければ責任なしとすることは不法行爲一般に鑑て議論の餘地があらう

更に名譽毀損に刑責を負はない限り私法上の責任を負はないといふ樣な事も、立法論としては問題であらうし私は新聞は學校と共に社會のハイスクールたるべきを持ちたくもないが新聞の記事について社會の利益の爲の個人の讒謗とか、新聞の社會的職能として許さるべき限度等を新聞の特異性を認めんと努力を惜まざるんことを期待し得るであらう。

第十一回社會學大會
若葉薫る京都(京大)に開く
研究報告六十六項の多數
岩崎夫山三枝樹三教授出席

日本社會學會第十一回大會は若葉薫る五月四、五、六の三日間に亘つて京都帝大及び同志社大學において開かれるが研究報告は六十六項の多數に上り各帝大、官公私立大學高師、高商、高農等の理論方面は勿論國民都大阪の各市役所その他實際的方面からも續々參加申込ある樣で又エール大學からデイス教授が大會參加のため急き來朝する等、盛會が期待されてゐる

この六十六項の研究報告が第一日(同大法文學部教室)第二日(京大文學部教室)の二部に分れて兩日共午前八時から午後五時まで開かれる、本學よりは岩崎教授、三枝樹三教授出席第一日目に岩崎教授が「國民社會の構造」三枝樹教授が「日南兩國の國民社會の構造」題目の下に夫々研究發表あるべき筈、第二日目は教授二氏の「日本固有の財產法の體系に就いて」「公法の將來」及佐々木惣一氏(貴族院議員)「政黨政治の將來」等研究發表が大々成されまた當日大會の公開講演は勿論、研究報告會にも會員以外の出席は許されず特に學生の出席禁止が歎迎される由である

法經兩學部の新陣容
新に七講師來任

法文學部
戰時國際公法　國際法　神原大教授　川上　太郎氏
國際法　同大教授　河原　政勝氏

經商學部
經營經濟論　京大教授　蟇川　虎三氏
海外經濟事情　大阪大教授　村本　福松氏

大學豫科
英語　扇山　四郎氏
佛語　三宅　治氏
獨逸語　下田　將美氏
日本經濟史　大阪大教授　管野和太郎氏

學部受驗者
豫門部からの
賑々しい學部入り
入學狀態

本年度豫科からの入學を除く學部入學者は全部で二〇二名で六三名の不合格者があつたが、これを科別に記載すると

科別	受驗者	合格者
法律學科	一四二名	九一名
政治學科	二〇名	四三名
英文學科	八名	三名
哲學科	二五名	八名
經營學科	二九名	二五名
商業科	三八名	三二名

で特に英文科一番から七番まで桃をならべて討死の樣は偉觀であつた、このうち變り種は鹿兒島高等農林、關大專三英語科、大阪商大から法科へ、大阪外語、京大法學部から商科へ完全に轉身したのが夫々一名づゝ見受けられるが總數において例年より遙に增加して居り相變らず驚然たる關大專門部から學部へ名づゝ進學されたのことである

それでは學部の責任に區別はないだらうか、廣告のことを特別記事とでふ學者もある。記事に關する誹謗事件は隣分多い。名譽に關する事件の多くは新聞紙に關係ありと云はれる程であるが、廣告を掲載したために新聞社が責任を問はれた例は餘りないやうである。

昭和八年になつて「廣告文の內容が頗る穩當を缺き紙面が新聞紙に重大なる過失あり掲載文は新聞紙に直接依頼の形式を以て業者が直接手渡しする場合、廣告主が新聞社に廣告料を支拂つたとき業者の名義と直接手渡しする場合、これが負擔に他人の名義を用を毀損するとなるのかと云ふことを新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任

	法	政	英	哲	經	商	計
專門部	55	22	2	1	12	4	96
專門部校友	22	12	0	0	5	18	57
高等學校	2	1	0	5	0	1	9
高商	3	0	0	0	4	4	11
高師	2	0	0	0	0	0	2
佛專	0	1	0	2	0	0	3
慶專	5	7	1	0	4	4	21
慶大	0	0	0	0	0	1	1
大阪商大	1	0	0	0	0	0	1
計	91	43	3	8	25	32	202

經濟學部が
經商學部に
昭和十年二月二日來文部省に申請

例年より增へた
學部受驗者
豫門部からの
賑々しい學部入り
入學狀態

本年度豫科からの入學を除く學部入學者は全部で二〇二名で六三名の不合格者があつたが、これを科別に記載すると

科別	受驗者	合格者
法律學科	一四二名	九一名
政治學科	二〇名	四三名
英文學科	八名	三名
哲學科	二五名	八名
經營學科	二九名	二五名
商業科	三八名	三二名

で特に英文科一番から七番まで桃をならべて討死の樣は偉觀であつた、このうち變り種は鹿兒島高等農林、關大專三英語科、大阪商大から法科へ、大阪外語、京大法學部から商科へ完全に轉身したのが夫々一名づゝ見受けられるが總數において例年より遙に增加して居り相變らず驚然たる關大專門部から學部へ名づゝ進學されたのことである

それでは學部の責任に區別はないだらうか、廣告のことを特別記事とでふ學者もある。記事に關する誹謗事件は隣分多い。名譽に關する事件の多くは新聞紙に關係ありと云はれる程であるが、廣告を掲載したために新聞社が責任を問はれた例は餘りないやうである。

昭和八年になつて「廣告文の內容が頗る穩當を缺き紙面が新聞紙に重大なる過失あり掲載文は新聞紙に直接依頼の形式を以て業者が直接手渡しする場合、廣告主が新聞社に廣告料を支拂つたとき業者の名義と直接手渡しする場合、これが負擔に他人の名義を用を毀損するとなるのかと云ふことを新聞社に云はせれば、故意にやつたわけではないといふ。自動車の運轉手だつて故意に人を轢くものはない」と過失の責任

配屬將校更迭
織田中佐着任

今年度陸軍大臣參動に際し本學豫科配屬將校として歩兵第八聯隊附中佐織田正一氏が新任され前任阿部洞一郎中佐は第四師團司令部付に榮轉せられた

◇京大　京大では法學の講座は東北大の佐藤丑次教授が擔任し渡邊宗太郎教授は行政法を講ずることになつた

◇日大　日大では野澤組から橋井

奈良西郊(舊作)
無庸生

玉砕の道をはさみて靡き合ふ校こことく花ふゝみたり
花いまだ咲かぬ櫻の並木路つゝれる水を見つゝたぬしき
饌員の建てたる寺の饌を尋めてわが來つかざろひを語み
夕霞尾羽をあげたる大寺の屋根をあまりかへり見すれば
堂ぬちは春の夜となりし酒槃供詣つる人のいまだとだに立ぬ

學部豫科追試驗
日割決定す

學部再追試驗は六月六日より十日まで豫科追試驗は五月一日より四日まで夫々行はれる筈

寄贈書

日本憲法の社會學的理解　甲文堂　岩崎卯一著
社會學徒　四月號　社會學徒社
外來語研究　第二卷第一輯　京都平野書院
大學生活　四月號　東京大學生活社
廣告文化　改題第二號　大阪廣告協會
岸壁　第五號　横濱專門學校雜誌部
セルバン　四月號　第一書房
セルバン　五月號　第一書房
大阪經濟評論　五月號　その社

◇慶大　自然美に惠まれた日吉のカレッヂ・タウンにより一層著者いた氣分を與へようと言ふ計畫のもとに日吉の植林を行ふことになり、森村評議員が發起人となりて一二月を完成した

◇三月に卒業生を送りて、四月に新入生を迎ふ◇春、來りなば夏遠からじ◇千里山上、浩然の氣を養ふべき絶好の季節◇草萌ゆる春の十の大成を祈願す◇桃に暮れ櫻にあくる千里ケ丘

桃李ものいはず花下おのづから蹊をなす◇古い語には眞があり味がある◇去年記憶の匂に遊ぶ◇去年の多數に上り各帝大、官公私立大學高師、高商、高農等の理論方面は勿論國民都大阪の各市役所その他實際的方面からも續々參加申込ある樣で又エール大學からデイス教授が大會參加のため急き來朝する等、盛會が期待されてゐる

この六十六項の研究報告が第一日(同大法文學部教室)第二日(京大文學部教室)の二部に分れて兩日共午前八時から午後五時まで開かれる、本學よりは岩崎教授、三枝樹三教授出席第一日目に岩崎教授が「國民社會の構造」三枝樹教授が「日南兩國の國民社會の構造」題目の下に夫々研究發表あるべき筈、第二日目は教授二氏の「日本固有の財產法の體系に就いて」「公法の將來」及佐々木惣一氏(貴族院議員)「政黨政治の將來」等研究發表が大々成されまた當日大會の公開講演は勿論、研究報告會にも會員以外の出席は許されず特に學生の出席禁止が歎迎される由である

◇二重賣買と二重抵當　東京帝國大學教授法學博士　牧野英一
◇日支關係及滿聯關係と國際法　東京地方裁判所判事　松本一雄
◇不法領得の意思　東京地方裁判所判事　江村高行
◇强制執行並保全處分概論(完)　東京控訴院判事　尾後貫莊太郎
◇公用文書の隱匿に就て　東京地方裁判所判事　森永英三郎
◇刑事政策二十題　東京地方裁判所判事　坂本英雄
◇高等試驗法學試驗問題　法學博士　坂谷次郎
◇宿題を通じ司法科學生の第一歩へ　法學士　能谷吉雄
◇司法科試驗法學試驗　法學士　能谷吉雄
◇昭和九年度高文受驗記錄　福島　譯
◇昭和十年三月施行東京帝國大學法學部試驗問題　選者
◇昭和十年三月施行東京帝國大學經濟學部試驗問題　選者
◇召喚の條件如何　東京地方裁判所判事　坂本英雄
◇國務大臣と國務大臣の關係如何　同　同
◇高等試驗參考書の選び方　法學士　秋山秀夫
◇日本憲法の社會學的理解　甲文堂　岩崎卯一著
◇日本憲法の社會學的理解　岩崎卯一著　菊判　定價三五錢　五〇頁　送料四
◇日本憲法學論の現實科學的把握　關西大學教授　岩崎卯一著　菊判　定價四〇錢　送料四錢
◇滿洲語基礎　大阪外國語學校教授　吉野美彌雄著　四六判　定價一圓五〇錢　三〇〇頁　送料一〇錢
◇學術論文の書き方　大阪商大助教授　五島茂著　四六判上製　定價一圓　二一五頁　送料一〇錢
◇國歲亂臣著　菊判上製　定價三圓五〇錢　四六〇頁　送料二四錢
◇商法抄說　本書は商法の總則より說き起し、會社編、商行爲編、保險法全部に及ぶ廣範圍を收錄し、簡明にして而も要論を把握せるは新進學徒の著書に應接を傾けたる跡が顯左される。從來用ひられてゐた商法の配列方法に獨特の案を施した事は本書の卓越せる特色である。採錄せる學說說明は全體を通じて平易に取扱はれてゐるを以て專門學校大學の講義用として、亦初學者の入門書としてよき伴侶たるを疑はざるものである。

TEA ROOM
WELCOME! KWANDAI BOY!
MATSUYA
.....SUITA, SAKAEMACHI.....

國家試驗　第七卷　第九號　五月一日號　定價金六十錢・送料二錢
目次
◇高等試驗參考書の選び方　法學士　秋山秀夫
◇民法　民事訴訟法　法學士　松本一雄
◇刑法　刑事訴訟法　法學士　牧野英一
◇商法　民事訴訟法　法學士　尾後貫莊太郎
◇行政法　法學士　森永英三郎
◇國際法　法學士　坂本英雄
◇國際私法　法學士　坂谷次郎
◇財政學　法學士　能谷吉雄
◇經濟學　法學士　能谷吉雄
◇經營學　法學士　能谷吉雄
◇經營學　法學士　能谷吉雄
◇經營

更新の學友會
學校當局と共に
劃期的發展を策す

學友會委員を選出して以來學生一般の期待と注視の下に本格的運動に入り、新規事業を發表し盛々好評を以て迎へられてゐたのであるが、醫科本館竣工、醫科假校舍建設の議が理事者間に起れることを聞くや、現在の學部本館も醫科校舍繞跡に新らしく建設代へさるべき時であり加之學長は學友會各部の部室を教室と同一建物内に置くを許されない以上

是非共　學友會館の設立しなければならないことに考へついたのであつたが併し現在の學友會にかゝる建築費や醫科の假校舍の建築費に本建築に出資莫大に上れるとき、假りに學友會館は學校當局が建設すべき筈と主張しても到底期待をかける譯には行かないのでこの機會に斷乎學友會は積極的に運動して當局の假校舍建設費に對し學友會より費用を醵出することとして一箇年使用後は學友會が永久に譲り受け使用するといふことに交渉した

又豫科　校舍の災害の際水の補給に困難を感じたことは勢ひプール設置の聲を昂め、水泳部の希望と共に内容外觀共に充實せんとする時に方り中小學校にさへプールを設置せるの時勢において吾が大學にこれなきことは恥辱であるとし、即又本學五十周年記念として絶好の記念事業たるべしと終に實行委員を擧げて交渉に當ることになつたのであつた

一方、部長會においてもこの運動に賛意を表され茲に教授、學生團結して學部大運動と化し

實現性　愈々濃厚となり愼重熟議の結果次の二案を得たのであつた

第一案　金一萬五千圓を學友會より寄附し、プール及び學友會館を建設すること

第二案　金五千圓を學友會より寄附し、學友會館を建設すること

この二案を携げて實行委員が交渉したが、第一案は相次ぐ建築のため當局も財政上の理由を以て容易せず結局第二案だけの受諾を見、茲に年來の宿望であつた學友會館の竣工を見ることを得た次第である

恒久化　並に發展を圖る樣心掛けねばならないのである、併し未だ正確なる金額及び職員組織の統計表には接しないが昨年よりは遙かに進境にあるのは極めて明白である。

社會信用のバロメーター
就職狀況の殷賑
名實共に進展

一世に聞こゆる大樹、名教授を揃へて如何に大學の内容充實を圖らうとも、學生自身が研究に、修養に、勉學、努力しなければ學校として眞の發展は望まれないことは今更言ふまでもないのである

本學に於ては學長はこの點に就いて確く現代學校教育が知育に偏してゐて

德育の　看過出來ざるべき狀態にあるを憂慮せられ、鏡鑑智德の圓滿發達を期せられて以來、教授學生間にこの美風の發揚著しく校風の發揮、人格の向上に顯著な效果を齎らしつゝあるのである。

社會的　評價のバロメーターとも言はれる就職率も年一年好成績を示して來たが本年はとりわけ前例に乏しき良成績を收めたのであつた、それは商學會紙が本學の名實共に具備して如何に大學の内容充實を圖らうとも、學生自身が研究に、修養に、勉學、努力しなければ學校として眞の發展は望まれないことは今更言ふまでもないのである

本學に於ては學長はこの點に就いて確く現代學校教育が知育に偏してゐて

德育の　看過出來ざるべき狀態にあるを憂慮せられ、鏡鑑智德の圓滿發達を期せられて以來、教授學生間にこの美風の發揚著しく校風の發揮、人格の向上に顯著な效果を齎らしつゝあるのである。

社會的　評價のバロメーターとも言はれる就職率も年一年好成績を示して來たが本年はとりわけ前例に乏しき良成績を收めたのであつた、それは商學會紙が本學の名實共に具備して如何に大學の内容充實を圖らうとも、學生自身が研究に、修養に、勉學、努力しなければ學校として眞の發展は望まれないことは今更言ふまでもないのである

本學に於ては學長はこの點に就いて確く現代學校教育が知育に偏してゐて

德育の　看過出來ざるべき狀態にあるを憂慮せられ、鏡鑑智德の圓滿發達を期せられて以來、教授學生間にこの美風の發揚著しく校風の發揮、人格の向上に顯著な效果を齎らしつゝあるのである。

社會的　評價のバロメーターとも言はれる就職率も年一年好成績を示して來たが本年はとりわけ前例に乏しき良成績を收めたのであつた、それは商學會紙が本學の名實共に具

各部代表者
懇親會開催
五月六日　於美津濃

本學は最近總ゆる方面において目覺ましい發展をして來たが、吾々は進んで更により大なる進展に留意しなければならぬ、即ち學友會各部は勿論教授、生徒、職員等共に相携提し、積極的に合つて最も理想的な最も健全な學校全般的の發展を企圖するのが最良發展策であるとの見解の下に此の程學學友會委員や藤井太郎君並に野球部の大橋君が主唱者となつて廿五日午後零時より各部代表者會議を開き、同席上全く滿場一致で懇親會開催を可決することゝなり會費も成るべく安上りでとの多數の希望があつたゝめ五月六日（月曜日）美津濃七時で開く運びとなつた、同日學友會々長に保學長を初め、同副會長村上嘉貞教授、學友會各部各部からは五人以内部費出席し極めて盛大に行ふ筈である

楊柳

昭和十年度
學友會豫算配當
五分削減の大鐵槌を喰ふ

最初學友會豫算委員によつて例年通り總豫算額一七〇〇〇圓の決定を見た、併し實は學友會に財政的危機が到來昨年度迄二〇〇〇餘圓宛別途積立金より毎年支出を得て各部の活動を拘束退歩せしめる樣なことがあつてはならないと赤字の決濟を別途積立金によつて仕來してゐたのだが愈々本年度は費消し盡して基本金の利子に手をつけねばならない財政的窮乏狀態に陥つたのであつたしかもこの

豫算委員　の苦心慘憺せる豫算決定も未だ正常性を得てゐるものでなく部長會議で俄然問題となり遂に基本金の利子と雖も經常費に當てるのは基本金使途の性質に背叛してゐると注意をうけることゝなり基本金利子よりの支出九〇〇圓の使用不能となり各部に亘つて平等に五分削減といふことに再決定を見て總豫算額一六一〇〇圓に削減せられたのである

そして學友會がかかる財政的窮境等の存在しない塾に入るか又は圖書館に通つて獨學生活に轉向—協同的生活の明朗と歡寓に欠けた孤獨と寂寞の世界に深く突入して行くべきである、諸兄等苟も人格の向上に遵つて獨學生活に轉向—協同的生活の明朗と歡寓に欠けた孤獨と寂寞の世界に深く突入して行くべきである、諸兄等苟も人格の向上に遵つて獨學生活に轉向—協同的生活の明朗と歡寓に欠けた孤獨と寂寞の世界に深く突入して行くべきである、諸兄等苟も人格の向上に遵つて獨學生活に轉向—協同的生活の明朗と歡寓に欠けた孤獨と寂寞の世界に深く突入して行くべきである、諸兄等苟も人格の向上に遵つ

春のシーズンを前に

稲若博

昨年四月卅日關西六大學リーグ戰に不參加の爆彈を投げて關西球界に名譽の孤立を守ること此處に一年、陰鬱な冬空も漸く晴れて陽光麗らかに照り初めてきた三月、關西球界の寂寥さと職業界よりの關大復歸の熱望の聲漸く高く其處に兩者の會合となつて目出度く春光は關西球界に微笑みかけた

職業復歸の聲と共に我が野球界は春の第一戰を承る明治大學との定期戰に備へるため三月に入ると共に練習を開始した、四月一日の對戰に備へるため桃咲く花壇に他所に只管一心同體となつてベースボール・オンリイに一箇月を終始した。回を重ねること四回二勝二敗の後を受けて今春は確実を決すべき時、勝運の女神は果して何れに社旗一般よりの關心の大なるものある以上に我々は鬪志滿々として三月も終らんとする卅一日「さくら」に新比都長岡村宜教授以下十九名の部員を乘せて明治戰ちずんば の奮闘たる若人の意氣を以て東都へ乘り込んだ大東京のマツ關には鬪邦滿洲國皇帝を迎へ奉るべく滿洲式の大歡迎重々しき裡を一行は明治大學の招待を受けて合宿所に國旗選手の交歓會に臨んだ。すき機に吾球を打つ和氣藹々裡に戰に練習を開始した明治は、猛虎の如き鋭さを以て一擧八點を奪ひ我々を震撼せしめ、獨り寂寞たるこの日の一點しきを感じ合つて。東上の車中より降り始めた雨は合宿を解するころには多らしい大雪となり明日の試合に一抹の不安を抱かしめたが果せる哉、昨夜の大雪に眠れぬ夜を過ごした。明くれば四月二日朝寒い風は行人のオーバーを離さしめるには無理な天氣ではあつたが第一回戰を我等のものたらしめずんばの虎穴たる意氣に燃ゆ母校の爲全力を盡した。試合は神宮球場で定期戰に相應しいカップ返還式ベーナント交換の式を終へて二時半雄渾總長の始球式の後響き渡るサイレンの聲と共に關大先攻で開始された。先攻の我等は昨夜の雪事功を奏し北浦、球球西村正安打して無死で二塁に寄り敵の心臓を寒からしめたが續く稻若、黒澤三振、橋本左飛で絶好のチャンスを逸した。裏仰谷中前安打したが後續なし二回我は吉田投手の不調に乘じ細面生

東京リーグ隨一の
噂ある明大を破る
依然頼もしき我チーム

今春の野球部を語る

我野球部は昨秋東都の輝き豪華を總括めにして、球界稀有の偉勲を建て、關西球界のために萬丈の氣を吐き、關西ファンの溜飲を下げたのは勿論、ナインの勇敢優秀能力は我スポーツ界の大の誇名を曾ねく天下に轟かし

社會　に對して關大のレーソンデートルを深め又本學々生及び學友會各部をして一層の發奮興起を促したところのもの亦大と云ればなるまゝ

シーズンアップ後氷らく沈黙を續けてゐた我チームは今春、村上一

關西大學リーグ

スケジュール

5月4日關大　關學　甲子園
5月5日關大　同大　〃
5月11日關大　立命　〃
5月12日關大　立命　〃
5月18日關大　神商　西宮極
5月19日關大　神商　〃
5月29日關大　同大　甲子園
5月30日關大　同大　〃

擊、佐藤二塁の二正塁を送つた本學の名手を迎へて依然チームの實力は微動だもしないのである、今年より三回戰行に改變された第五回對明大定期戰球戰を晴の神宮球場で交へ、今春東京六大學リーグ隨一のピッチングスタフと底知れぬ打力を誇る白鳥陣を詰りし明大を悠々、軍門に降してナインの意氣昂然、全く世人をして唖然たらしめたのである

昨年　春本學が三塁加藤問題の不誠意を叫んで脱退して以來關西リーグの聲名全く地に墜ち、關大を除いた五大學では全然試合興味を無くしファンの失意落胆も亦大いなるものがあつたので昨秋リーグ生軍連の驍騰復歸の聲高まるや世人をして驚嘆せしめたくらの程無條件

蛇を逸した形であつたが、年盤り本年最初の試合に相見ゆることゝなり去る二十三日午後七時から朝日會館で第一回對抗擊劍試合を行ひ、今年南條を送り偉力を誇じたかと心配したが、新人部の白井登（東海岡）高森茂（慶三）の二强を得新進には華やかすぎる戰績を擧げて氣を吐いて呉れたのは頼もしい限りであつた、當勝南は早くも二回で完全に敵をTKOし安勝も亦輕くKOし、東都で聞かせたものもの注意も既に會式内、日本選手權保持者の樋口が病氣缺場したとはいへ僅か判定勝の一點を得たにすぎなかつたのは案外後想はづれであつた（上記勝）

【フライ級】　濱口（本學）　判定　三矢（法政）
平岡（本學）　判定　鶴岡（法政）
【フェザー級】　高森（本學）　判定　辻（法政）
南（本學）　TKO　季（法政）
【ライト級】　成（法政）　引分　飯野（本學）
【ウエルター級】　白井（本學）　判定　金（法政）
安藤（本學）　KO　江口（法政）
【バンダム級】　荒木（法政）　判定　村田（本學）
倉橋（本學）　判定　笹川（法政）

新學士に
「榮光あれ」
嚴肅裡に行はれた卒業式
三月二十日　威德館で

本學々部第十一回卒業證書授與式並に學科修了證書授與式は三月二十日午後二時より千里山學會威德館において盛大に擧行された、卒業證書授與の後に保學長の式辞、文部大臣、大阪府知事、大阪市長及來賓代理、校友總代の祝辞、學生總代の答辞があつて三時半自由度終了した、本年卒業生は法律學科一七八名、政治學科十名、英文學科一名、哲學科七名、經濟學科三七名商業學科二六名で總數二九九名前年度と比較して二〇名の增加である、學科は第一部一一一名、二部二〇〇名でこれも前年に比して非常な增加である、卒業成績優等賞受賞者は小阪克己、田口敏夫（以上法律學科）中村常興（以上學科）上野良吉、谷口勝雄（商業學科）の諸君であつた、學科は他に賞受領者細川喜代見（第一部）佳良賞受領者は一部七名二部四名であつた

藤井・倉光頑張るも
京大に大敗す
關西學生庭球

大朝後援關西學生庭球聯盟主催の第一回對抗試合の本學對京大の試合は去る廿三日京大コートで擧行された、本學の藤井、倉光組は昨年日本學

新入歡迎

關西に於ける優秀なる大學新聞として、關西大學新聞は覇を唱へてゐるが、今回熱あり意氣ある新入學生諸君の入部を切に歡迎してゐる。

ふるつて入部されんことを希望する。希望者は四時限後部室（クラブハウス）まで。

關西大學千里山學友會
新聞部

東都の雄　法政
見事にノックアウト
偉力を增した拳闘部

昨年甲子園で第一回對法政大學拳闘試合を行ひ、その時は驍騰の

惜しいところで明分けとなり、長

☆吹田に誇る映畫と音樂の家の出現☆
來る五月一日より
ロリガンシリーズ
NO1. ロリガンパーティー　開催
☆記念品贈呈☆
ロリガン　喫茶室
省線吹田驛前

射撃部

中村主將統率のもとに新人十數名を得て、五月中旬行はれる對大阪外語、京大戰に對し猛練習を開始してゐる。次いで來るべき京大主催の高專大會には、必ずや千里山上に輝くカップを持ち歸らんのと、各部員一丸力しその意氣凄きものがある。なほスケジュールは次の如し

五月中旬　對大阪外語春季定期戰
六月上旬　關西學生射撃聯盟（春季大會）
中旬　三大學（立命、同大、關大）
下旬　全國高專大會京大主催

■執筆者紹介■
第一面　新聞部長
第二面　荒川虎一郎氏は昭和六年法律學科卒業ラジオ公論社勤務
本田藤慶氏は昭和八年法律學科卒業音楽評論社
榎本金次郎氏は昭和九年商學科卒業文學士本學大學院
田邊信市氏は醫科教授
第三面　來島志郎氏は昭和九年法律學科卒業大學院
春原源太郎氏は昭和五年法律學科卒業弁護士
第四面　新聞編集部
第五面　新聞編集部
第六面　新聞編集部
第七面　新聞編集部
第八面　新聞編集部

購讀者募集

新學期になりましたので、各藩の整理上新たに購讀者を募集します月刊大學新聞としての關西大學新聞のために大いに應募されんことを希望致します。

年額　五拾錢
振替　大阪一八七五
宛名　大阪市外千里山
關西大學新聞部

御入學の紀念撮影は
佐々木寫眞館
北區曙橋交叉點東南入
電話北 49 12

純喫茶
不二屋
吹田旭町

ヤングマン服装專門
河合洋服店
日本橋一丁目交叉點角
電話南3381番

御召服の御用命は
扇橋の
長府屋商店洋服部
電堂川(86)五一〇番
北區扇橋電停前

祝御入學
學内食堂

お買物は
御便利な
天六
京阪デパートへ
一階、三階、四階
營業時間　朝九時より夕九時まで

純喫茶
ブラジル
吹田

祝御入學
淡路の
新京麻雀倶樂部
關大生經營

一寸一球
清い娯樂
カナリヤ倶樂部
千里山終點噴水前

カメラ
現像
焼付
引伸
ミツワ寫眞機店
梅田新道北へ入ル西側
電話北2197番

終日終夜
性病
科專門
●梅田阪急東半丁電車通
醫學士
法學士
江里口医院

祝御入學
新緑の裝ひの御用命は……
心齋橋筋　東京の　洋服學校　事業部

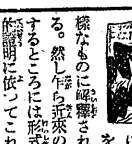
祝御入學
乞御用命……
中村洋服店
新京阪大學前

文藝

音樂講座

音樂と感覺及び情操

本田聽聲



管てジヤンジヤ。ソ。ルーソーの時代においては、音樂は單に耳を悅ばすと云ふ樣なものに纏繞されてゐたのである。然し乍ら近來の音樂家が主張するところは形式的美と科學的說明に依つてこれが正當であると主張してゐるのである。又千八百七十五年にヴントはその最も正しい方法の第一條件として協和、又全く音樂に就いては或一つの効果、認めてゐるのである。今又此處に或る本質に就いて云ふならば、音樂に依つて組織簡潔な感覺を占めることは、論として、感覺が音樂から生ずる感覺の本質であるとするならば何故嗅覺が覺と同じ樣に獨立してそれ自體で立派な藝術を生じなかつたのか、軍獨においては、觸感は直に刺戟から生ずるものであるが（氷水は必ず喉の渴いた人に快感を與へる）音樂において協和音を單獨に聞いたからとて、それには少くも認むべき價値を生じ立派に感的に詩的な性質となるのである。音樂を聞くにおいてもその起される刺戟と云ふものは人に依つて異つてゐるのである。

生理學者が音の源を起す感覺の効果を示さうとして音響の刺戟を受けるとき筋肉の發エネルギーを記錄したり呼吸や手組管の脈搏や心臟の鼓動の圖解をしたりして、一般的結論と法則とを作る譯には音樂を聞くに及んで一定度の修養を積むと、耳は最早一定の形を印し、消極的な感受性で音樂創作するものではなく、聲と云ふものが動いて判斷し或程度において聽覺的音色の什事を分解し改造し再度の建設に依つて一定の心意そのものゝ樣に一時的で變化する意味を與へるのである。此處に音響的現象から音樂的現象への變造があるのである。音樂に多少價値的な記號の助けに依つて得られる心理狀態では無く組織的間接の模倣であるのである。何故なれば精神の一定の習慣を表現する事に依つて聽者に向上を與へ、これ等の習慣の結果たる行爲を實行する樣に彼等を促すに至るものである。此の事實が感化力を發揮する根抵にある事は疑ふことの出來ない所である。

ベートーヴエンはあらゆる感覺、惡心でさへも音樂化感覺の源泉となり得るものであると主張した。大音樂家は非凡な感覺家で普通人よりも鋭い感受性を享けてゐると看做すのは此の故である。しかし乍ら彼が必要缺くべからざる出發點であると云ふたからとて、決して一種の法則に依つて音の組合せの中に自己の充分なる表現を見出さなければならぬとも限らない又作品を創作するにあたつても感情と全く離を異にするものを必要とする習が無いと云ふ結論は出ない。音樂に表現される情操は言語に翻譯するが出來ないのである。音樂は普通の形式に缺つた皮相の情緒よりもずつと深いところから出て來てその本質を保つためには感受性以上のものを要するのである。純粹の感情主義は不正確な主張を有して居り、生理學的理論と同樣に不完全であるのである。吾々の思想は早くも遲くも動くことが出來る。休息も無く目的も無く不安な緩慢の裡に其處此處とさまようかと思へば、瞬間として熱心に一定の目的を追及することもある。或は心坦懷で樂しい思惑の惡夢の塊を飛び越すとけんけんをして吾兒の遊べる道はたの馬糞の塊を飛び越すとけんけんをして吾兒の遊べる

一首づゝ覺して行けば百人一首吾兒に敎ゆることも樂しき

百人一首のむつかしとわかおもゝ歌を吾兒はたやすく暗じ得たり

God bless the Bearsとの陶酔の表情詩歌の口眞似す吾兒は

吾兒（露）

無庸生

煮炊する妻かあたへしにぎり喰べ兒はおとなしく廣巷に居る

春日抄

飯田正一

雨あとの春日かさよ庭土にぎほしの發ぼぐれむとする

朝庭の蓄にぬれつゝぎぼうしゆはむらがり伸びて鬱葉かさなる

朝戸くる眼にしみくるやさやかなる日に光りゐる補ゝ若葉は

暮れのこる春のゆふべの淺黃ら坂下まちに電燈ともる

道のべのひともと櫻細枝の花とほしらに風にゆれゐる

芭蕉瑣談

隨筆　飯田正一

芭蕉は屢門人に敎へて、俳諧は俗談平語をたゝさむがためなりたといふ。その語はいろ〳〵に傳へられてゐる。例へば北枝の山中問答には

俳諧のすがたは俗談平語ながら俗にして俗にあらず、平語にして平語にあらず、そのさかひを知るべし。この境は初心に及ばずとぞ

三冊子には師のいはく、俳諧の爲は俗語を正す也。つねに物をおろそかにすべからず。此事は人のしらぬ所也。大切の所なりと傳へられ侍る也。

このほかにもある人問曰く、はいかいは何のためにする事ぞや。答へて曰く

土芳の

芭蕉の

俗談平語をたゝさむがためなり（二十五箇條）

俳諧は中人以下のものとあゝまれるは俗談平語とのみ覺ゆるなる故なり。（俗談平語をたゝさんためなり。（俗談口訣）

と見ゆるとゐるし、なほけふの昔などにも同じやうな語があつた筈である。從つて、わたしはこの詩語について、どれが最も感覺に芭蕉の精神を傳へてゐるのであらうかと考へる。

芭蕉は種々の書に傳へられてゐる。所謂に集めてみたらかなりの量にのぼるであらう。既にそれに類した試みをした人もあるが、俳諧に稱するものの中には假託のものも少くないから、輕

本當に

師を信ずることは最も危險である。師を信ずることは最も惡き去來の遺著として、從來死と無條件に認められてきた去來抄にさへ、疑はしい部分を見出し得るのであるからわれ〳〵は慎重に重な態度をもつて臨まなければならない。時人及至後人によつて深い敬慕と崇拜をよせられた芭蕉の周圍には、いろ〳〵なものが漂山着してゐる。芭蕉の眞の姿を浮び上らせようとするならば、先づそれを洗ひ流さなければならない。諸書に傳へられた遺語といふものゝ中から、一切の夾雜物を顧ひ落して、果してどれだけが本當に芭蕉の語であるかを論別すべきである。

芭蕉を理解しようとするためには、その作品に對する論評を進めると同時に、この事業を併行させる必要がある。けれども、この基礎作業は甚だ容易に見てゐて、實は一方ならぬ困難を豫想する。道に樣たるゝ〳〵の隘路はあるひは不可能に近いものを餘儀なくせしめるかも知れない。

さて俗談平語である。山中問答と三冊子の出版はいづれも芭蕉幾後人しい年代を隔つてゐるものであるが、北枝は彼に從つて道に思なるもの、土芳は彼と生國を同じうして深い因緣を持つもので、その記述は共に信ずるに足りる。傳來も確であらう。たゞ二十箇條は彼を枕げて己を沿る支考の著であり

祖翁口訣

はそれを繼承してゐる痕跡からするから、全部をそのまゝ鵜呑みにすることは出來ないが、俗談平語に關する限りにおいては、他に依據すべきもののあるが故に、これらも同時に併用していゝであらう。

ところで、土芳は俗語といひ、他は俗談平語といふ。芭蕉が如何なる言葉をもつて說いたかも一應は問題となる。多少の手續を經なければ解ぜられないことがらかも知れないが、こゝでは俗語と俗談平語とは恐らく同一の語義と解釋して差支へないと思ふ。

芭蕉は俗談平語を俳諧の爲に用ゐたのである。俳諧は俗語の爲に破壞を敢へて仰いで蓋然すべきものには遜ひなかつたが、それは傳說の形骸に、傳說の新しい生命を吹きこんだところにあつた。彼は傳說を內面化に深化させることによつて俳諧を藝術の領域にまで引上げたのである。

いふまもなく、俳諧をして連歌から區別せしめる最も重要な標識の一つは俳言であつた。例へば貞門は他の作品を批評して、「此句無言、わるき連歌なり」などと屢〻言へ、蟹には作する句を俳諧といふなり」とあるやうに、俗言のこと、である。若しくは俗言をむねとするものである。しかしてそれらの俳諧は、俳諧をして俳諧たらしめんがために、換言すれば、俳諧の本質と考へられてゐた價値を表現せんがために、俳言を用ゐたのである。たゞ芭蕉の俳諧はそれとは異る。

俳諧の

芭が俳諧史上になしとげた革命は傳說は芭蕉の中にも生きてゐた。芭蕉の新しい生命を吹きこんだ傳說の形骸に、傳說の新しい生命を吹きこんだ